

# 「相談支援センターとがん患者会との 『連携』と『協働』について

滋賀県がん患者団体連絡協議会 会長 菊井津多子



# 本日本話させていたたくこと

- 原体験
- 内なる力
- 当協議会の活動
- 「連携」と「協働」の現状
- 期待する「連携」と「協働」への思い

# 原体験

37歳での乳がん罹患

4年後の再発

乳がん患者会「あけぼの会」への入会

# がん治療の限界を超える患者の内なる力

ピアの力

ピアサポートの力

ピアカウンセリングの力



がん治療において「ピアの集い」が持つ力の活用

がん患者サロン

がん患者会



# 滋賀県がん患者団体連絡協議会

- 発足 2008年3月
- 経緯 県がん診療連携拠点病院未定で第1期「滋賀県がん対策推進計画」策定が全国より1年遅れる  
→ がん患者団体の有志3人が集る  
→ 県内のがん患者団体に声をかけ3団体で発足（県の後押し有）
- 構成 現在 ・ 正会員：5団体・賛助会員(団体会員総数 約350名)
- 運営 運営委員 16名
- 活動
- ① がん対策への参画
  - ② がん患者サロン運営(現在県内9ヵ所)
  - ③ 「ピアサポーター養成講座」開催(県補助金事業)
  - ④ ピアサポーターのフォローアップ
  - ⑤ 体験集「こころ綴り あした天気にな〜れ」(第1版H23年 第2版H24年発行)
  - ⑥ 「滋賀県がん患者大集会」開催(H25年)
  - ⑦ 「がん患者作品展」開催
  - ⑧ 「滋賀県がん啓発イベント」
  - ⑨ 「がん患者力向上事業」(H26年度〜) (県がん対策基金事業)
  - ⑩ 「情報発信事業」ホームページの開設(平成26年度〜) (県がん対策基金事業)

がん対策体制の中での連携と協働の仕組み

「滋賀県がん対策に関する条例」

「滋賀県がん対策推進計画」

第5章 がん医療に関する相談支援及び情報提供

がん診療連携協議会

相談支援部会

「ピアサポーター養成講座」費用は県の一般会計

# 相談支援センターとの「連携」「協働」現状

## 「がん患者サロン」の運営

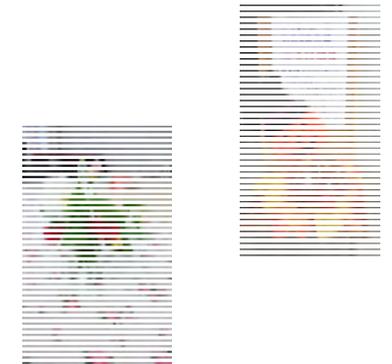
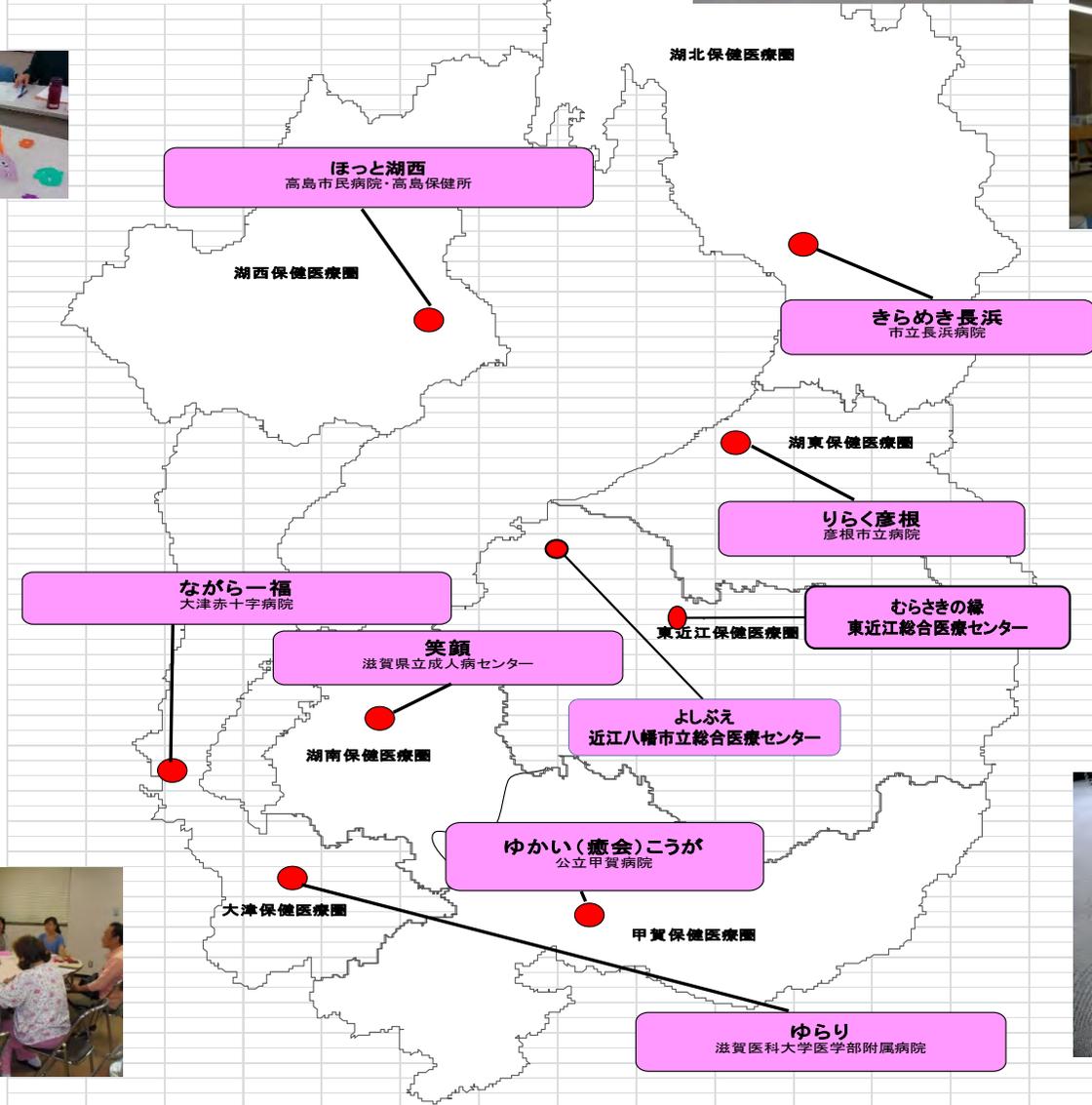
- サロン開催時に参加して専門職として後方支援
- 参加者の紹介(相互)
- 患者サロンの広報
- 開催日の準備
  - 院内での案内板の設置
  - 備品等の管理と準備
- イベント等の企画
- アンケート、参加者数等の共有

「滋賀の療養情報」の作成に参画 (初版時)

県内 9カ所で「がん患者サロン」を開催しています

主催 : 滋賀県がん患者団体連絡協議会

協力 : 県・各病院・相談支援センター



がん対策で謳われた「連携」「協働」から始まった[がん患者サロン]の運営ですが、徐々に、相談支援センター、相談員、事務方との「信頼」「連携」が深まってきたと感じる嬉しい場面が多くなってきた。

ただ、まだまだ、

がん治療の中での「ピアの力」を医療者に認めてもらえていない。  
「がん患者サロン」の周知が進まないという現状がある。



**信頼、理解を深めるために患者団体として行っていること**

①がん患者サロン、ピアサポートの有用性をデータで示す

- 参加者アンケート実施
- 参加者数把握

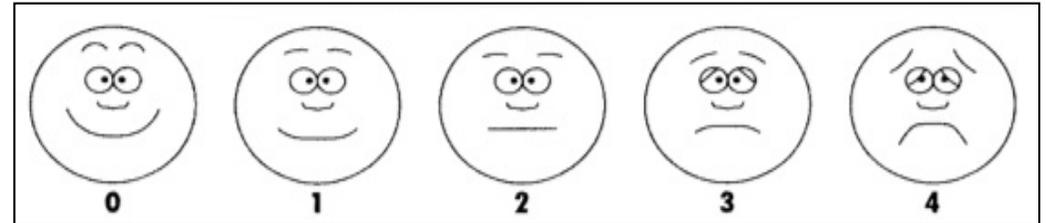
②がん患者サロンの参加者への丁寧な対応と運営

- ピアサポーターのフォローアップ研修
- 事例検討会
- 「ピアサポーターの心得」の作成

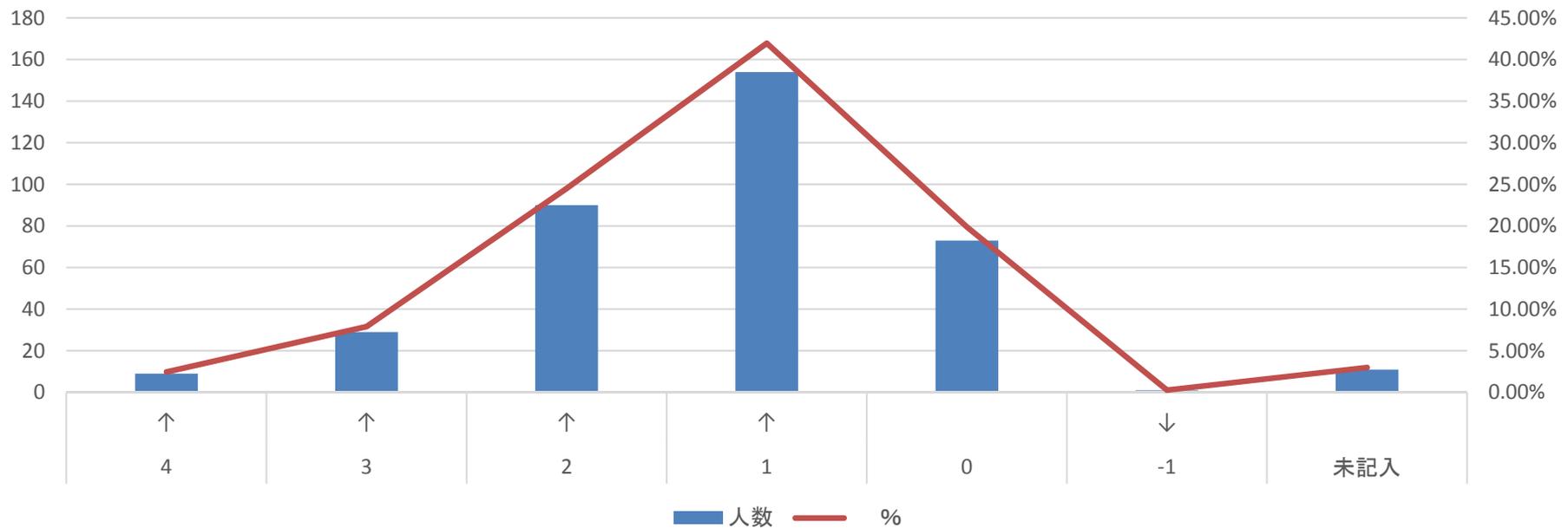
# 参加者アンケートから

## ① 気持ちがどれくらいアップしましたか？

サロンに参加する前と後の気持ちに近いものに○をして下さい。

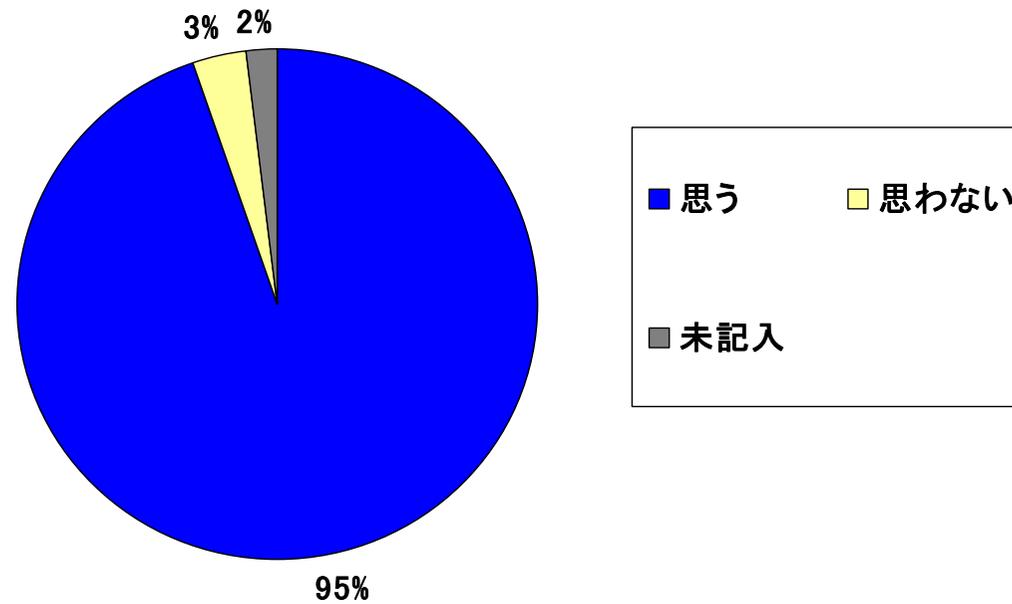


### 気持ちのアップ率(フェイススケール)



## ②またサロンに参加したいと思えますか？

またサロンに参加したいと思えますか？



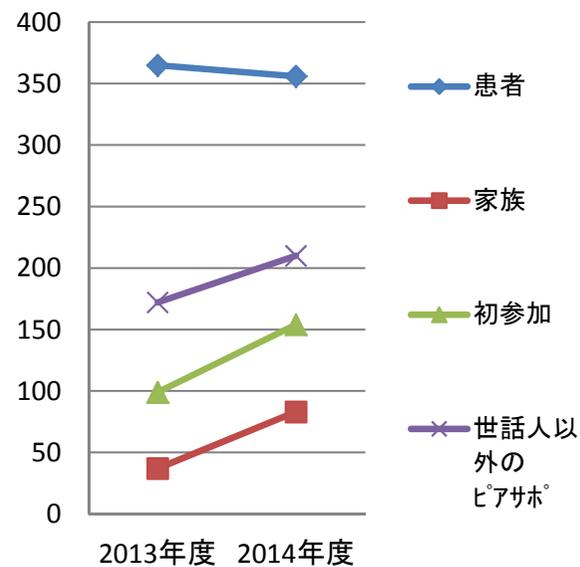
### ③記述から

- 同じがん患者同士で理解し合えた
- 自分の思いが話せました
- 気持ちが楽になりました
- 皆さんの発言に勇気をもらいました
- 色々な人の体験を聞くことができました
- 元気をもらえました
- 気楽に何でも相談できました
- 家族の思いが聞けて有意義でした

# 平成26年度 サロン出席者一覧 総計表

サロン名	開催病院名	一般参加者				世話人	世話人 外の サポ <sup>o</sup>	以 ピア	指導者	参加者合計	開催病院関係 者	その他
		患者	家族	計	(初参加)							
笑顔	成人病センター	74	30	104	39	48	15	7	174	14		
きらめき長浜	市立長浜病院	67	7	74	30	38	49	6	167	19		
ながら一福	大津赤十字病院	37	12	49	24	35	31	5	120	9		
ほっと湖西	高島市民病院	21	2	23	7	35	27	11	96	19		
ゆかい(癒会) うが <sup>o</sup>	公立甲賀病院	82	16	98	18	48	32	5	183	32		
ゆらり	滋賀医科大学 附属病院	46	11	57	20	48	20	2	127	16		
りらく彦根	彦根市民病院	29	5	34	16	48	36	1	119	1		
計		356	83	439	154	300	210	37	986	110		

## 総数年度比較



# 期待する「連携」と「協働」への思い

「がん＝死」と言われた時代から「がんとともに生きる」と言われるようになった現代のがん医療。突然、がんという未知の世界に飛び込み、“あなた自ら治療方法を選択してください。がん医療の主演はあなたですよ。”と言われ、戸惑う私たちががん患者にとって、がん医療における「相談支援」体制のもつ意味は大きく、その窓口である「相談支援センター」、「がん専門相談員」はこれから益々私達がん患者にとってかけがえのない、なくてはならないものとなっていくと思います。

“退院からががん患者の本当の意味での不安の始まりだ。“と感じている方が多い中で、「相談支援」はがんと向き合ういろんな場面での必須体制です。そして、このようながん医療の変遷の中で、相談員の対応力の維持、強化はこれまた必須だと思えます。

相談員の配置を一病院の人事としてとらえるのではなく、**県単位、否、国としてがん医療の大きな資源として捉える必要がある**のではないのでしょうか。

がん対策の仕組みの中で患者団体との「連携」「協働」を謳うことが大切だと思います。その上で、患者、医療者相互に培った理解から、**こころが動かした「連携」「協働」が真の「連携」「協働」となる**でしょう。

『**こころからの「連携」「協働」**』こそが、私たちが求めているものです。

さて、「相談支援センター」「相談員」が私たちに求めるものは何なのでしょう？

私たちが今一番期待する「連携」「協働」は、「がん患者サロン」の有用性を医療者に広めるためにどうしたらよいかを一緒に考え、行動に移していただくことです。そしてまた、“どうしたらよいかを一緒に考えませんか。“患者側の参画が必要です。”との声を投げかけてくださることです。そして、相談支援センターで待つのではなく、外に出て、まずは院内にある潜在的相談に  
応える体制を作ってください。

その為にも**「余裕ある」相談支援センター、そして、相談員のケアと配置が重要**だと思います。

